

会 議 録

会議の名称	第9期小金井市地域自立支援協議会（7月期）合同部会
事務局	福祉保健部 自立生活支援課、小金井市障害者地域自立生活支援センター
開催日時	令和6年7月25日（木） 午後6時40分から午後7時00分まで
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者	<p>【委員】 各専門部会の部会長以外は任意参加 室岡 利明委員（会長、社会参加・就労支援部会長）、佐々木宣子委員（相談支援部会長）、浅野 貴博委員（障害者支援施設検討部会長）、川田 義廣委員（相談支援部会）</p> <p>【事務局】 自立生活支援課長 自立生活支援課障害福祉係長 自立生活支援課相談支援係主査 小金井市障害者地域自立生活支援センター</p>
会議内容	第9期小金井市地域自立支援協議会（7月期）合同部会 会議録のとおり

第9期小金井市地域自立支援協議会（7月期）合同部会 会議録

（会長）

ただ今から小金井市地域自立支援協議会の合同部会を開催したいと思います。各部会の会議の結果について共有をしていきたいと思います。よろしく願いいたします。

（社会参加・就労支援部会長）

最初に私の方から社会参加・就労支援部会の会議結果について報告をいたします。今日は7名中6名参加という事になりました。自己紹介をしつつ、その中でちょっと課題がありますというようなお話をいただいたものですから、課題についてお聞きしました。一つ、就労B型をやっていて求人面が難しいという話があり、すこし外れた話になりますが、そっちは難しくなってしまうからやっぱり影響が工賃の方にも出てきてしまうというようなお話もあり、なかなか職員が集まらないということから、資格を持っている人とそうでない人で対応の差が出てしまっているというところが悩みなんだってというようなところがあって、あと企業間の連携でどうやって企業に挨拶し、どうやって仕事を貰ってくるというようなところでなかなか行けなくて、ネットワークの構築が難しいというようなお話をいただきながら、障害者支援の事業所に務める委員さんから超短時間雇用についてですね。渋谷区の事例をいただいて、渋谷区は区長さんがお声掛け係という形で短時間雇用について、ネットワークを組んでいくといったお話がありまして、その対応もですね、障害分野の課だけではなくて産業関係、経済課、小金井市でいうと経済課になると思いますが、経済課さんなんかも横断的に協力をしながら進んでいく。区長がお声掛け係なのでその辺でやりやすいというお話をいただいたというところですね。B型の認証等もなかなか難しいのですけれども、そこら辺も緩和をしていただいているというようなお話でした。雇用に関しては最低賃金でやってらっしゃる。企業さんに依頼をして、30分の雇用であれば、最低賃金の半額を出すというところで企業さん側とお話ができているというようなところでございます。その中で一つ色々な事例的なところなのですが、銭湯の風呂桶を洗うとか、あとは訪問看護の自転車のメンテナンスなんかも依頼がきているといったお話があり、そのようなところの事例紹介をいただいたということです。私の方からはネットワークの話というところをさせていただいていて、やはりこの中にネットワーク、就労関係のネットワークをやってらっしゃる方もいらっしゃったので、その辺のお話をいただいて、どうするのがネットワークしやすく受注しやすくなるのか、その先ほど言った企業間の連携がなかなか取れない、挨拶に行けないという話からそのような話になって

います。私の方から受注とか、そこを企業から一括受注して、それを各作業所に振り分けて共同受注共同生産みたいなところができるような取り組みっていうのも一つ考えていくということをしてできなくはないかなというようなお話もさせていただきながら、それで最終的に一応この超短時間雇用の話を進めていきながら、工賃の問題であるとかネットワークの問題というところに波及していくといいかなということで、一応次回の部会の課題にさせていただいたということです。以上でございます。何か事務局として追加は特にはございませんか。

(事務局)

今、会長がおっしゃったとおりです。ありがとうございます。

(会長)

続いて、相談支援部会の会議結果について、お願いいたします。

(相談支援部会長)

相談支援部会は全員出席でございます。7名でちょっとだけ遅れましたけどもほとんどスタートに間に合っているような状態で開始しました。本日は特に協議事項としては何か資料を用意してというのではなかったので、まずそれぞれの委員の方が、日頃どんなお仕事をされているかとか、活動されているかですとか、あとその中でどんなことを、漠然としてしまうかもしれないのですが、課題と思われているかと、当日振られているので難しかったかもしれないのですが、皆さんそれぞれ結構しっかりお話くださって、それが一回りした後少しご質問ですとか、ご意見なども出たりして時間になったという感じでした。それぞれの皆さんがお話されたことは本当に様々だったのですけれども、やはり今回の委員の方々のそれぞれのお仕事の内容ですとか、活動の内容ですとか、相談支援の傾向などとても幅が広いので、皆さんそういうふうなことなんですというふうな情報としてというか知らないことを聞いてきて、まだ知らないとか、気づいていないことを知るという機会にもなったかなと思っております。ただ、部会としてこれから協議していったり、いろいろなことを考えていかなきゃいけない中で、何にテーマを絞っていったらいいかなっていうのは正直ちょっと難しい部分もあるかなと思ったのですけれども、ただ、キーワードとしては、例えば「連携」ですとか、あと「自分たちの事業所だけでは解決できないということ」という言葉が本当にどこからも出てきまして、色々な分野の知らない、自分たちが例えば精神の方が中心の事業者さんでしたら、お子さんが関わってきたりですとか、高齢であったりとかいう時には、他の所の事業所さんと連携しなければなかなか解決できないというようなのをどこもおっしゃっていましたので、「連

携」が一つキーワードというのと、あとはやはり情報が、聴覚に障がいのある相談員をされている委員の方もいらっしゃると思いますので、情報保障が難しいという話題も出ました。あとは肝友会さんの活動もおそらく私も含めてなかなか知る機会がなかったと思うので、やはり皆さんもそういう活動をされているんだな、そういえばそういうふうなことを見たことあるなとか、そういうところで捉えてらっしゃったかなとは思いますが、やはり情報をどう届けるかというところでは同じように課題があるなというところでしたので、そこら辺を「連携」と「情報保障」みたいなのが、今日の参加された方のお話の中からは課題になってくるのかなと思いました。あとは事務局の方からお話いただいた、あの3点まとめていただいてこういうところをとってお話いただいたので計画相談事業所の閉所の件ですとか、精神のヘルパーさんとか、グループホームの不足ですとか、あと地域生活支援拠点事業についてやはり自立支援協議会が役割を担うことによって出来上がる加算の制度がありますよというところの説明を本当に言葉で今日はざっと説明していただいたところでしたので、そういうものも検討の中に入れていただきたいという提案という形でお話をさせていただいています。もう一つ、皆さんが一とお話していただいた後に連携もそうだったのですが、災害について、災害時の対応ですね、そのことについて話すのはどうかという提案がありました。あとは新しい福祉会館についても、その災害支援の役割を絡めてどうなっているだろうなということから、具体的に何か提案した方がいいのではないかなということよりは、おそらくどんな状態なのかも今はわからないと思うので、少し以前に福祉会館のことで関わっていらした委員もいらっしゃったっていうのもあって、その方から福祉会館と災害時の取り組みとか、役割なんかは、何か市の方に提案すればいいのかなど自立支援協議会として意見としてまとめるのはどうだろうというお話が出ております。災害時の準備としてのパンフレットを作って見直したことはありましたねということで、それは覚えてらっしゃったので、皆さんも知っている方はうなずかれましたけれども、そのような話が出て次はこれをやろうねというところまではちょっと行きついてないのですけれども、皆さんのお話をかなりじっくり聞けたかなという会になりました。以上です。

(会長)

ありがとうございました。

事務局から報告はありますか。

(事務局)

ありません。

(会長)

続いて障害者支援施設検討部会の方からお願いいたします。

(障害者支援施設検討部会長)

障害者支援施設検討部会の方でも、最初に自己紹介をしまして、改めてそれぞれがどのような仕事をしているのかというふうな、全員参加していましたが、お一人ZOOMでの参加の方がいました。あと途中でお仕事の都合で早く帰られた方がおりました。自己紹介をしまして、他の部会と違って、これまでの積み重ねというところがない中でのスタートで、陳情を出発点にということで、資料を事務局の方で用意していただいたものを説明して、そして委員の中に陳情書をあげられた親の会の方もいらっしゃる、その方のご自身のお子さんのこととかお話があり、追加の資料ということで親の会が出されている資料を配ってということでその方を中心に少し話が展開した感じです。ある委員の方から、この部会で二年間の間にどのような目標で話を進めていったらいいのかといった率直な意見が出ました。ごもっともと思いますが、施設を作る作らないという話が出ていましたが、すぐには無理なので出来るだけ話を出していただいて、詳しく出していただいて方向性というか道筋を少しつけた上で次の第10期の専門部会にバトンタッチできればというところの話をしたところで今日の話は終わりました。当事者の方、視覚障がいの方もおられて、今の課題として話されたのは当事者の会の高齢化ということと、調布支部が解散になったということ、つまりメンバーが減っていることプラス高齢化が進んでいて、会長さんがずっと同じ人がやり続けていて、その人に負担が集中している。その方が出来なくなると辞める時に若い方への引継ぎがうまく行かずに解散になってしまう。それが全国で共通した課題であるとのお話でした。一方で若い人達は入ってほしくて声をかけているけれども、昼間は仕事をしていたりするので活動に参加してもらえないけれど、一方でSNSとかを使って全国の組織になりますけれども、そういうのも出てきている。5、600人集まっているという話をされていました。委員のお一人で、通所事業者の方で、今の仕事の前に山梨県の都外施設、入所施設に12、3年位働いていらして、その方は経験がおありで、入所施設を作った後を支える職員、人材確保をどうするのかとか、まだ一回目なのでそんなざっくばらんにはお話できなかったですけど、こんな困難がありますよというような民設民営といってもなかなか手を挙げるところは少ないのではないかと話をしていただいて、重い話をしてしまいましたと言われていました。これからも率直に話し合いの場面でご意見を出してくださいとお願いしました。事務局からなにか補足はありますか。なければ以上です。

(事務局)

ありません。

(会長)

ありがとうございました。各部

会の報告は以上でございます。

そうしましたら報告だけなのでこれで終了したいと思いますが、何か最後に言いたいことありますか。

それではこれで終了したいと思います。ありがとうございました。